

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 37 号

2014 (平成26) 年3月15日 (土)

論 語 塾

札幌市立発寒西陵中学校1年 藤 亮 太

僕が論語塾に通うきっかけになったのは、二年前祖母が誘ってくれたからです。

論語のことは、どんな勉強をするのか全く何もわからず入会しましたが、新田先生のわかりやすい説明で、孔子先生が2500年前の中国の立派な指導者であることもわかりました。

素読はまだまだ意味もわからず、声を出しているだけですが、論語の中で一番多く出てくる言葉「仁の心」の意味が他人を思いやる心ということも新田先生のお話からわかりました。

僕が好きな論語は、「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿れ。」という言葉です。

意味は、自分がされて嫌なことは、人にしてはいけないと言うことです。なぜ、この言葉が好きかということ、自分がされて嫌なことを、人にしなければ、いじめがなくなると思うからです。

僕は損得で物事を判断することもあるので、「仁の心」を忘れず、挨拶をしっかりする、人の嫌がることをしない、これらを守り一人でも多くの友達に信頼されるようになりたいです。

※ 来月(4月)は、街道 夢さんをお願いします。

【ちょっといい話コーナー】

2月23日(日)、「第7回こどもの声発表会」があり、塾生の前山彩さんと深見理良さんの二人が2年連続出場し、塾で素読をしているだけあってメリハリのある素晴らしい発表をしてくれました。

【お知らせコーナー】

塾生の藤川響君が、お父さんの転勤で名古屋へ行くことになり、残念ながら2月で退塾しましたよね。お母様から子供の塾生全員にお菓子を戴きましたので、まだもらっていない方は申し出て下さい。

一年間の反省と新年度に向けて!

寺子屋・こども論語塾 主宰 新 田 修

平成25年度も間もなく終わり、塾生の皆さんは春休みに入ります。この期間は、一年間の学校(幼稚園)生活を振り返り、反省と課題をしっかりと総括(全体を取りまとめて、しめくりをつける)し、新年度に向けての計画を立てる準備にしてほしいと思います。

一月の論語教室では、皆さんに五つのことを強く訴えました。その言葉をもう一度思い起こして確かな歩み続けてほしいと願っています。

さて、今月と来月は論語とは直接関係ありませんが、塾生の皆さんにとって今後、役に立つと思われる事例を幾つか挙げてみました。

一点目は、英語の発音について、よく間違える人が多い例を1つ挙げます。(これは今から十数年前、ある有名私立高校の入学試験に出題されたことがあります)

● say[séi]【動】言う・話す→三単現のs saysの発音は右のどれか [séiz]、[séiz]、[sé:z]

二点目は、間違えやすい諺です。(これは数年前、ある会社の入社試験に出題されたことがあります)

● 枯れ木も花のにぎわい。 ● 枯れ木も山のにぎわい。

意味は「役に立たない者でも、いないよりはいた方がましだ」「つまらないものでも、ないよりはましだ」となります。

・この諺は、自分を謙遜して言う言葉なので、他人に対して使うのは失礼です。

・老人が若者に交じって何かをする時などに用います。

新年度を迎えるにあたって、何かの役に立てば幸いです。